13
1930
2上

清水物語下向

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝまでぶつ。おさうかの
ゐとひ百年のよまひ
わかるゝ。ゆくべきさきたゝぬ
しらてしぬよりしの
ゆくへに付くらうう
ゝ。五車の書をよみ人も
みく。そのこゝをきこえ侍ぬつゝよとう
きし人も白こし筆をとゝこゝんまの帳
ゝそあ。ゝ。ゝ。ゝ。の白玉天も
ゝ。ゝ。ゝ。

那ぢ第の業よりとけう嶋れてこぞんよりあま
さはやとらひるまといの子ハ三うひのくひうせなり
おやこのみちとはくもあ世のうめふあさ
那ぢまま婦一の中こそ海ひれさぬるれぷうろ
いりうくこんもま婦一のあるふよりくこたお
これりひのうねとなりうもるぷ三うりむ
中よりいれ世へよくはとあうとも風よ海
さくなさるひのきえぬうちこそうのこなれ
きんその坂ハいくせんぷうなりきーのれ世そ
あるの乃紙新うひうあへとすめうり　ちあ
まくくはは海とくいいとぷくをなくて

川をまうりあるもなくてうこれまこれとの富
よひうりあ来世のもー新うひひとてもおすあも
ゆくみうれうもこてこのうんーぷのとれ海
えぬりきりうさけ世のすまの野うりあうへで海
をまうりくそのうちあふよくこありくゆん
と思うぐあるとうくあうへうくこそゆうあ風ぶま
うあ海あまりてハぷうさはうぬうちあよ新うこの
みひびとうりぬへ三綱五常のみう風ふれな
ぷ来世ようき半ありうもそれうてゆくこう
うぬうあのようこんとうちぬへ三綱五常さへて
さ海うりあーんぷあ世ハうくをわれと海くうわ

まこのよ物語もまーこもいろーぺさて孫子百さま
まーたるまーぺきそそるひくるこそ孫りそ海
人ものまーぺきそすぺゆさ百千さみらやそそ
森のへまつ高良のみちすくてひ色は一月もた
てりかそーぺ君ほとくに上下のみち位とそこむる
るあり。上下の位をくハりそめ色ひつきわひり
もぺの色つくそわひひさのうへるもひが
巻へーぺのりあひめそうへ上下北国の
ちるて人のみちハうりまーぺ親子ひそちな
くハ名をそまれまぺへのあそれハあや
とそひそそあまぺのちとそそもちと思て色

のくゆも孫ようーとそにとるあき人もぺ孫
れそめとゆまーすやぺ月をうるまくもうむ
月とほそめぐそんとすてくわ斗よのりせー
もあやのそめ物そめ物すやぺほりあきもさ
しそをすくそとそ巻へもとそずそ孫
巻ゆるていそんやあ家りれる時よぺきそん
あそむいとあーんそ物へさせそれひばひんゆや
のそんをるすてそいてそ孫なりそうや
ア色物へそるくそ孫のトちうみそりのいま
野とて稽さそれるそせそきそ人い親なり
又明日よりきほのくそん物へみそくも親

はるかに人のひかるる様こそ
わうとひとしもあるまじけれ
世間をえうぶかうぬのみちはなくてもよかり
むとおもふ事もあらんことをせめ佛といふ
そしりをもおしすやうぬのみち
ぬくハ百年五十年のうちのハ家もうくさ
家もかくなりくずれうせきたるやうなく
ゝ佛法ありても世のあくにんせんぜうにより人
ハ見れ聖人とすりく五こくもこれうゑん
あらひ人ありとこれ家のみちに入ぬん
ハ間をはくりとこうりもれなくてやうん

世間をはるかに佛のひかりもゆるさ
まで世のもとをすハ木の葉やこゝを
きるべきぬきりぬせかりあるくま婦のみちをを
ぬくもぬいひてもかくぬはるくはなるへ
天地をかくふのまでめてぬをもきざ
まれ死をそぶはでさまてこれこまふ人
ありぬせひとをはハ海ひかるりつりや
上人まる誠ていのぬくぬ男ハかもきぬ
ぐちの人ぬ海をこうすのなりぬのの
聖なる人もぬぬ法の津ことをもをんちぐ
なり世ちぬぬのせあ誠ぬけぬこきり

みくにのうちのしゅじょうすべて法さい所まで地獄
餓鬼畜生阿修羅人間天上のあらゆるみ
なみな仏なり。仏はなほ衆生とおなじ
身なれども僧をくやうしてこそ仏道をなし
とげたまへ。されば僧をくやうしてこそ
みちをよく知ることはりとも来世の事
しきやうもんよりほかにはつぎてせんとてもたれか
つぎぐせいの身ともいのりぐくこそ来
世のいとなむ事にはあらめ。されば法華
ときくてもこくのいのちあるあひだは法
華をくして再を始めくやうのこと
あるべきなり。しかるあいだ
す　なのくこういとくぶかふもあるべきなり

三世諸仏の方よりこの理の常
こと御事にみくにのうちの人の理の常
まる云葉すてこそ理の中さいはつ
法をうけとりいるまで仏とおぼしめ
身をもてくしもりよ如来仏ことこそ
わりくくること云ふ心ゆ心如来
つまて仏よりはいやとぐくること二河
ひくひやこのいのちとおぼせら一心といつきやうと文
よりひやこのいのちとおぼせら一心といつきやうと文
もくくること云ふけひやこのいのちとおぼせら一心ゆまよ
さくること云ふ事ならば仏とおぼしめる一心ゆまよ

ぜんぜうこそひくくはしへ。仏ぶつ形なる母ぶ橋
ぶつ菩ぼさつとそうこをそうこ像とくうずるとぶ法ほ
せられぬ。これハこれ金銀来錫ぶくハなくいやかぶ
も来もぶ世の重宝ぶの世ぶまるもれぬくいるも
ぶ世をすてて来世ぶ橋とまるみくもいるぶ人ぶ
ハこのよれすきひとりぬもれといひまして橋
も家ぶろうんとの心持ぶまりぶ上人こそみくも
わるぬ人と地ぶてぶへぶうふやてもきふもと思
ひるぬるぬ。ぶぶくハ形ぶしるれぶ。ハもくの来と
いひくるぶ。ぶすぶそれも情のこうきとうぶ物ぶ
ぶ方ぶ中ぶ来ぶすぶハ来をわけられぶぶと人

も馬をひるまれハ的のまこと形りハ形ぶひも年。
まるぶ年前月まるぶぶこそうけもれるすぶひハ
毎ぶあぶこをれもぶ義ぶくれるぶ物まるぶ何
ぶく的ぶいてんと思ぶとも多ぶあくハも内
まひへぶ世ぶくれ年前ぶひくハもぶハ
まるまひひ仏ともひへぶ年へのぶ千
前れまるぶ人ぶいきなるへぶまるひ多前
ををく理姫をもまをへも。夜盗婚毎を孫
ぶんハ的をぶくこて年ぶれあきがぶくな
前へ。百ぶ百ぶもあるまハまへぶひ毎の
さぶれちぶひまるぶ形ぶひ来毎もまれる

りんとよ上人おそれさりてこの
とすゝめ給へ。其方のなる人をもぢら尼ん
きこのまれとも可ゝ。又ハぜんえいのみんとも云
ゆゝ。あるときれ悪人まれも悪のこゝろ
すゝ。佛とこんうしたまふ世あんあんと
く第笑雑とのうまゝ。ぶ世ゝ。ハむひのらくよか
こう。仏ようゆあてゞ。ひのうまて仕合ようく家も
ゆゝ。第世あくハ七宝ゝ。ぜんのまのき極ん
もゝ。ゆくゝう。是と二世安楽ゝ。ゆゝ。
今まて羅漢ゝ。ゝ人ようてゝ。ぶゝくゝと
ゆゝ。ハ会佛とゝ世ゝ。ゆゝて善人た

ゝ。ゝ世れみちとゝ。ゝ仏の事ゝ仏
の方便ゝ。ゝ世。西垂なゝこゝとゝれゝ。ゝ海
法ハ大海のもとゝ。ゝ
ゝ。
何ゝ。ゝ人ゝ海ゝ世ゝ。ゝ
今の世ゝ。ゝ
仏ゝ。ゝ
ゝ。ゝ
て。第世笑雑とのうまゝ。一刀きりゝ
きゝれゝ。ゝ
ゝ。ゝ

ひへ〜ぷてはらもちて刀よ手ゑくれも僧ハ
ちまるまくみのけられうぷ〜ぷづしてもんたうまき
ぢんりいな我ハ初めしろき半のたのるへまにたも
風くたるもとうせてうこそかひなまれ鳥えう
しぶ石れあうりみく鳥ハどけよれよ形るらしく
為人ありうれむぷ人とみくくふくぢけ泊え
きどく姫ぎそといひ為半ハあふとやなき
半まれとの人発人きつてよきぬ霜みくあを
ひへぷ海とせて鶏のう雑も佛よなう
形どく思ひくぷれきれ石のうけもだうや
見すぎしあろうにあきぷ〜ぷきとりせた

弁と形く佛もうくこ天たも形ハ形ぐくいひ
さみして泊こと風ぢまぎ我ぷごこれいぷあるふ
てもいうすいきみくもいいすとりせもぷ姫
形うとひのものみてこまひもきこえこんぷぷて
きまんとすれもうもむろうきり形くやさう
くみ人のれこうひくをすこいれ物語ぷ
ふ形つけ半みれつぎ我どくなう沖へよを
きてきどくくもぷ姫ぷぎくもうへ為まれ
見うれこる半ハふぎふなきとおひみれ
主ぬまもあれもきどくぷ姫ぎと思へ半み
くいぷ英子細ハるれ定とぢも姫ぎみくいろ

ひとりやあのこのきとりてみるれるゆへつまさこく
とりもあるもぬおくこそひへざりてさこひ
ゆへぎれ雪一ちり奥の水すもしもとの水
の花れいろく深りて千の者うこのりそう
よ立どりてすもちもぬいみれりまも
これかこれも更地のうちよりれすゆと
もちこぬりぎそたりしもへしと世我
すへてこちよりわが心よりこ海えらまあ半
わこもみるれきこうれぬりてこそわれりと
を思ひわりあこもゆへぎあくしきこくり
てこの海まきとちりて石う海とりひろう

そとともゆもるすりきこくゆ海ちこく
すこれそ行ゆへよくのおこくあ海ちこ
海人うとひ海ふんこうひもれくゆくへ
そのほう瓶理のちりさ海ちあ海りう
とちりぬまもゆ海ちこくあとりう
ちくゆへぎ半さ海よりぎど
ものときこくなまあちと
おりと海へもきこくもゆへぎちう神な
半も佛のもも現ちこくなりるゆ海ちと乃
乃こあこすきこくなりるゆみれさぎこくや
海りへこの半も海ちりすてちりと海つ
ぬこうりかんりすりへこくたちう

立敷ふとしひ面をふとてだよりのひきりをぷ大
聖人といるもれいくん人とだ悪人とぱてさせられは
人八生れつきハ行れぐちろひくる事をそひやだ
答曰ぷ大善人と大悪人を生れつきあるものを
二人くくくくみるぱ時ぷ悪人の生れつきハ一き
八海ってみるものの形ち其まのしるやうにみる
為ここ形ハりをやうの而をぷいるりのさ
ぱくやうかくこくぱ人十夜まのこうく
如為ぬ事ハくこひよあるえずくき撥のをへ
きハ為人ますくの撥ぐんせひりてくりは
行ぬ為くに為ひ人をこ法ぱる事を

このぷ人ぱめくくすぱ事をとるくこひ人の
あるりをきこのれをそれひるあるなる樂
紛とるる為人のかくを見なるぷの人ぱるくぷ
くくを人をぱくくもなく無法なる人ぷ
た答曰聖人とるる人形ぬてぱるくひをへき
ぱくくくこをぷ為ぬよいまくぬくをれやる
ちををくくをたくこ為ありてぷちをひやるる
めくくきハ地るくるやうなる形ち何くを
るもあるきぱるる。又問曰ぷくもぐいをぱ見
して為へなるぐくくぱや答曰ぷやうよ為ト
あるぱ事めくハ形くぱぷいげんの必を境を

ぞくこきのたがふるとくに極おとにさくらわけ
ふるやうよ桜こと形くぞもつるしよ海どハ
すぐりぬきぬの清やくとくぞまにとくもも
清ぶまつ色くみえくぞかうまのうとも
ちゑとくくまのしこと後やくうまもちひよ
形くぬ事をすぐ人よ海せくあさ藝能な
どにすぐれうゆ事このりとりてとぞれりて
世成まうゆ者よ規模ある色うかのひるぞ人の
ちくまとぶてぞかんこのうよすへき事のハあこ
色うしぞ人の上中下と善悪と賢不肖を能
まるぞまの人ちうあ其かちゑとくうぞ人

よ世ちうゆ面ものとくにとりくあるやうよみも
為なりぞめくく心よ物をかまつくく絵ぞまくるふ
ハあくすよ又四見聖人よ海ゆ海てみあるれくなよ
き生れつき乃人がのとくゆ面ものうゆ色人と
ハ成くくれるや答曰念れあやまりあくく悪人
とハ形まるなり其一念をくうてこれもぞ聖を
つきれくのきよるれとほまくぶれよちゆ志
形くと思ひ物くとにまるぐきのうをのうぞに
ちすぞ者あれもぞのまるかよくすこうくとねこ
とここうのくくうちこひとぞ我ぞくむゆ有
ゆ人ゆとつちゑれくうれるあそれぞのいきけん

そこ所にて思ひ出を作りくるつりをよ
城中にてことかめそやしぬ一ぱくこ城うをぬ月の
ようだんをすることよりつよく心地ごろく
天をも人をもなくかつぶきめ城中人
なくまぐ海くなる事ハ月ごよ清のりく大西
人とられり命ものみ人もをとづまぶ書
而して赤代よ清さゆう事ハ百余所の一の義
トにくもとむる事ハ姫ぐて。又四日地形む
まれつきの人だの西へよる聖人とハいまれ法ふ
や答曰これも一会の海こととりぬこれるうり。
う思ふまし人よすぐれてようくさも。芒よ海さ

而事もやハりのうんとかこ人よりさあをう
けまるれくこすつる清ハよくさも。天乃よそむ
自うそむうあるとかり少ようこ天道のあを
りりをまくれん人まで天下かこれりあるんと聖の
すを山のぬくまてそもくれぬる人まてそ代ぬり
うくちりづ事。天下のち西をありめて而ぬりく
まがち西ぬもちのくく山のとくよあるく海代と
自をりぬうき大海となりくうる人と。聖人とこ道
文王代聖人くりハ。鉤をを海く太公望まで
をこづうくみ西事ぬりくあるよのせくぬり。十
人のたくん人をくまへて法下をてもちひ法ふ

ゆへ八百年の天下をあたへたり。其外
薪をうり日用をうり牛をうい。業銭を出世の
こまかて。聖賢の古代めいろいでてのきこ
と銭世こなりて世意もちゐもとくしもく
さゆくくく

かりぶんをとりこまんパもとりかの
まぜくるのさまをみるに昔やうみ世を合
くるきぬをとりあつめるこうるへ物とりたなかこを
ちりくはかこなんとさかうハかうりてもこれ礼
なり長八世間よりもあるぶ物をくいろ人を
ちの義ぬをうりかくいつもとて物をこのいと糸は
これよりきと思ひくハ大ハ大ちとる糸あるへ
物ときぬのさかりとぶもーのうこきんのいろ
ぬもーをきくてぶが世よたうつもとひとぬまりく
もちひぬまるもーしぶやうよ人よ物をいもせて
まりぬをありくぶりんのきぬもちゆるぶ

ちをくこ海すとうなるぶ又向日さやうの人まか
きここ孫ようてハりくせんや答曰年ようこ海
人ようかぶへ又向日象大むかもしろく
答曰まきんのけうあるん人よこちりけうぶこな
まぬせくぶれハ年よ物ぬせくちちをかくま
をあーぶくく天乃ハこて海をくとりぶ物ま
ち十分よ我ひとりをゆるすへくぶくーわ
分よぜんをおこるぶをくぶさけをすあ武
士ハんよすくれくすくまんーそれも加合り名
そげて婚よ分ちりくハ大のみちなすあへ。
馬遁さもあつまりてありけハぶ物ちみ

八千里をもかけるものときくぞまれなる千里を
かけるものは一疋のみや百ぢに千里のたぐひをつまで
もこゝにたんぱくなるべくもなれとものいとい
人のまくるる千里は馬うまれもとして千里のり
をぼゆるこゝろのものやあるまぬ一うまの足のうんつまやう
猛こそこのまくるれ千里のるこのりとも乏き
なるべし其上千里の馬ハ遠くさハ知ぬくまも
見んとかつゝきゆくよぶぬ一うの風ノ形ちハ男の
遠くみハ形ぬときくそ見とまてのあせるこ
そまなるんとのぶ一人のまくるるもちろん
くるべんもはそのうんぶきぶ武士をつるあう

地も知ぬくのうへてよきたゝのもちろ遠をを童
寶なるべしとあるまぬ一うの風ノ形ちのみるまぬ一と風ちん
いるのあくひよぶるもくまくのうぬさ
まみくほくるれはハ千里のるよあちん遠を
むとりひくるふ知ぬ一ぶとりぶ中ぬ者の中ぬも
きみもなる事をかるのと思ひくぬ茶屋よ
勝けるぶ人のるるハあやまりも大なるあや
まりハめみもくぬ公家かさよ官をこのそ
ひむをほくぬ人ハすをれとも知ぬなりくる官
のちのくをちすぶりても遠とめぬ人をこの
ちんつれとちぬハ知遠一ときくぶ武家の

人を軍礼をハあくき事まるれども。国中より一人
二人ハありもやもるんだらさハ見ぬとみえたり。
又僧よりうまいたりうぶ人なる。一人二人ハありも
やもるんぶんハ姫礼るりぶあやまりハ幾千
万そや茶屋ゞ曰ハ拙僧ハもいこもるれさもそれ
ようりちうきたのやまりこそ人よ生れく人出
乃志ぬ人ハりくゝはりんや其あれ事ハさく
ハちさるハ拙よるぬ事なるへとゝも国と
め銭ハんありせくかりうぬ志ぬ一のりく茶
屋をおゝく詠り刑ときけも茶屋れあ事
こそまりうきもれるれ。一の面もれく世れを

きうれよりうくゝと後へく光信を美面目さ
れるるんゝき弁うれといも一人のりく物
よりれゝきもこそ僧三陣山機の花盛りみう人
もなくちりやま清るん前のうちれ古来画所
まりてやまりうれんさいう武勇の信軍人
みくく弁のよりんぶんよりぬ人なる宮神
前すぶりへなき着よる乞ひとするぶ。
清ゝ三れんれうるれくなりう津初家れ武乃みめ
よりきこゞくよりんあひの蔦絵ゝやうの津を
世よれ清るんめぶかゝみも拙きハ清よるゝ月
目ゝきやうかくたうれあうみくくのせんこく

をすゑ中ゑずくみおくこと云けるに第九章より終
あまりにせんさくすぐれもまけもなきさま
よりもおなりぞれ天はまゑくしてほすす。
うゑがゆくゑ天のまそ地の下に
ゆの地のまそ八又天まうり是かうハ地
と云まうちれくきり球もう銘も運よさ球さ
天地も万ゑまうり物まうぐ人のちゑもぜひ乃き
つまをちうぞーてせんさくゑりすぐれもくぐ
なう者と物ことまうる形り是ハうちみうち
ハ分別あるふ物くゑ見ゑよくゑぬちゑまうだや
うとりみまれまうぞ地のはうハめ球うくまうう

をほんちと云まうぞやちある人ハ國のまさハ
ひなりぐちみくゑゆうまうなまうハでくんひさ
ものおとみくぐまうりまの足まとひゑなう
形り
はりの蓋うゑ三条の蹴まそ年のち十七八も
かりなう者ハ一人と。元ひまうさけうあの
こ二三人とゆきあひくゆかのさやあうまうそ
喧嘩ー。三人のうち二人きゑ天ゑもあけあり
まうき人の大手柄とそ家くまうりうけられ
五百貫三百貫などうゑ海りもんとゆうう人名ハ
ゆとかうう。一人のつれがうまくぞれもうくし

き事にてはなきりんわるるぬるもの大名元のか
しかられいこそ心わるさるれ国中の人くこれ
程のまなるまきこと思るそのまとりぐう
れいやそれ形くもちきやうこうもれさもい屋
くよあるぬもれなるんぽ又つまてもまよ
あいまれるくはそ程のまよめ紙さ海ひ
きぬり知いまりわがれいこそうぐうこの
しわくぬ時よりくいい嵐も猫よくいつさ大
も虎をくこの事ばりぐやくれまわくよあ
まれとはいひがこ国のあるどのりがれん人は
国のためくりをよく知人のうる程よなるべき

人ばそつれ大ぬりくぐ陳蒙情れもう縁ぬり
めきくをすう人ぐ亜なり老ぐりう者をこそ
ぬくくうるもしめん事まれ喧呶の論ぐひ
たうう者などいひくぐつめれうあく心れうら
とまもくれくぬさる論ぐひ喧嘩こ
のむ国くハ千万人一日のうちもいりぬ
国乃物くさ人ぐくされ大ぬハ国ぐ奪りてもまめ
まほう俄ぬ業くうもれりあくも世るふ
物ぐきまあくとかくあのこれう。業な
うかりみくあく人も一言ってもぐの人山ようり
も物一　一むまとと現り人くくらくよひを

為ハ物のきなる人の金銀をぬすむをみるか。何
者よりぞこの者ハ物をハ物まぬとみく人のい
ぶ[illegible]とをもるへ[illegible]又ぬんなる人のうちよりうぬ
ぬ物をさうそ[illegible]れ人のうちよりきたりうれ人ハ
あつれまの為くとりまーときて其人のくこ
れ高下ハをるへ[illegible]と也ものう又一人の曰さてーも
なきものをまのむるぬ為すきをハらめうず
ゐるむ[illegible]物をとり又一人の曰物をにも
すむんまのさ者ハ為いるの心もまーと云。
又一人の曰ものくをくむをもまけをなすを人
ゐ物をのる人ハ為ぬいりれなすき物我

ゐーゐ為とり又一人のいくそ[illegible]を
よ為こひのらまくく物をの為ハ為ハ人
ゐをの為をもまりぬりぬりまく
すぐれうゐ物をうりくゐをと思ハ為ハ我ハ
ものくきくゐをさ
まるする人の中よ心ぬうる人とみえて
ひをうもん為まうハ為ハいもきゐをうを
経ゐをうまあまーをそうまれまつゐ為を
ーあくもるうき事の為一みくぬうし
とうをみあををもるを孔子孟子為と
もきうれうゐ為ーあうれハ為

腹きる人きりまつも重恩の恩をわう
せんとおもふ事なれば。命をすてゝこの恩を
わうせんと思ふ心ざしは御きゝ入られもぞん
を深くする心ぶかくぬる理をもつぬこゝをす
ろうなれ。孔子ゆいとは仕をすゝめと
こゝろつかへ。親をうきて親をうゆうろうれ
もぶめくはきれ母よりの事よりのうす。
私のとゝへまも孔子みちまもそのわう思く
乃をゝへみもしなきしまりぬ思をわうせん
とおもふ。孝弟なる道へむ二のちうせりを
ゆくしてわうすゝ。其上をんをあゆくき

人が腹をきりく思をわうずる乃理
わうし。親をゝをんれ姫さいなる。人の
子ハこれ逆腹をきゝんや。子ハ親を使ぐゆへ
きゝぬと云人わうむ親を使ぬる子ハ皆きろ
色きや。服切ゝ思をわうずるふ形ぬをよ
くこゝふ親のゝめふ子の服きりゝ心ハ
光つき思乃ゆあり。腹きゝ乃理なす事
をくるまり。又重恩ハ姫をもつゝきを
理きり。恩れ君ゝろ人もぼ下の上中下れ
ゆゝをゝれ。つまもゝ思ひ三恩
ハ命ゝもゆぬをまんぞんり

思ひ[illegible]ものこそ海とうにすこしきこゆる海
面きれ。千五百中よりとんをきこゆる者二三人
ありて。ぶりハ悪をもきこゆること
をはきやうよ津ひうしゆ海ゆくこそはんん
とみもつれくいつてあさ海ぶりく服きりく
悪とわうすりあ理あるもそのこと一家中一人
そのこと服ときりてこそぶやくんれくる
婚んみもなるへうれ。人や二人きりてぶ海の
心のあまねうぬ経みそく。心あり人のあり
きもうしき事ありてそ追服きりをて
らへくみけも君ありて人のりてゆうちる。

元れ分れまつりふ形へ人よりく
ゆきやうよあもつせぶるきよのことあらち人
の思ひうぬすうもんよきと思へ人を
ちへうそれもよ津へうきりうち事あり。
天命運命ちりう海人のすりるんあ理
そ。運命つきぬうちハ弓鉄炮の中にを
ても走るぬ物りそれを走ぬハうあ形の
形を事りうりあ海へうを知へうを事を
走すて人のりけよへをこう理へうく八天
命をみを後ぶ孫のうあもよ後しりう
理をぶりあうう信長公のれうある。雲雅

平助が中間寺まゐりに服きりに行合たいさ
ぎよくにちもまゐへ一ぱいとうんすがよ
あとにりあり。ぐこの角ぐひ一筋ハそ一番へき
事よりのすゑ。ゑもほとほめへとかさ
角をかも服きてうれつあ一筋もりのんう。
心のりうなりう人ぶの山殘らうるめ稼ぐ
ひるるぶきをよ海ドつるんりうハう稼とあ
くるくく山のかーよらかりをもすひぜをを
使らあ角ゑうかくぶ夢をくりうきのと
ゆつもづれの人れ日ぶ角せひぶこ後ハぶこう
くひへとーもそれれ無れをきをきとの分別と。

角ひらもあと無れとにあ物まれと
もるひをきるあ人ハ無れをるひくを
使ゑうあとりひ。ゑるるくきるあ人どりあ
ひくを角ゑ稼うあ人とゆるす。又世るり
れきりゑ角とあるこ形く呼あく人を
これ角れる。角れ角ひらひ三ひるう
よ後ゑかくひよ一きハあくを黒ハりぶハ
あくまのくを角ひらひくぶを角て角ひ稼ハ
あをゑかこせ無れを使くてす稼きハ見
ぜせをくよりうりあるあ。稼ひきを形
稼るも乳を使くぶんるるも乳をるゑ

心よ毒の強ひの物まぜこそりとのうげてけ
れば、みこいとこ海に入りぬ。乳母のきみ、乳母
こすりひぬ。よりて心のまゝよ。食物
えらひ物どもてすこ。ぬくとぬくとぬ
ひとも暑ハなりりり　人よ海ぬ
よ海強ようきき者と海ぬ。強
物ようよ強よ海ぬ。人も又強より
海する者よりぬ。海ぬ海ぬ海ぬ
ある者なりて海ぬるまぬ。海ぬ海ぬ
いくとも　答曰。の事も接ぬ強ようぬ海ぬ
人ぬ。こ物ようもぬくらぬ。

強ようぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ
とぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ強ぬ海ぬ
とぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ
もぬ人ハ強ぬ海ぬ強ぬ強ぬ人今
さぬるとハぬきぬ海ぬ海ぬ海ぬ
くれぬ人ぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ
ぬ。質者ぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ
す海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ
海ぬ人海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ
海ぬ物海ぬ海ぬ人ハ海ぬ海ぬ海ぬ
海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ海ぬ

よのなかのいとをうきものとてぞうにすり
ぬのことを欲つるまれぞすぎまひきりやうにな
りぬべき事なり尚有ぞもれきおりさ尚よ
思ひとりわろうれとりしべぞつれの女ちに曰そう
ドてくるまれいとする為もれよ欲つき者多し。
ものすくれき者多し物を
多くうしそもむさりの心まと欲のつきこと云。
まづつ事よぞまりのまの者ぞるきよにられ性
欲ハあまそむきりの心をそ
ものくハあれもみくむべきるあるすぞきてうひ
すこと人ぞうきよくハあれと十方なし犬

名ハぞうきとり圓とうしなひ名をよこて
人まそ殺まぞまざつひとを殺くべ犬名のを
つまきりて身上のまそそうハ古今きうす欲
殺くあハすぎくもそそうる為多し。ぞ為
為者れ者ちくてもそうる尚者ハすくぞうひ
すごうてゆづまてうハ物ゆと云。又一人の曰ハ
殺んきいを主為ハすぎ欲。何事もわづくよ
すれもそうまもなくうまれもすべ為の程
と知とのこ一白まてぞ何事もぞきこ為なる人
しとり　物よづくハよきんるり物ハづハ
よのなかの人とぞきしあ人為中よぞもれ事

女ハみなく人くのはらふ。家よりれたる
き人とのひ。親よりそうされもよかるぬ人
といつかハひがりまりよのき人といふハ人ぬ
善悪をつるまく。能よりたまてこのきをもあ
りれこ人をすり女事するきれともさ沢ごに
人のようなのきうちうとみるけておうきぬ
能とのはうひをまうちあやまうすわうちハ
つまくもうもえうく海じりう。霞のかれ春ぬ
花のごとくうちみまうとやうにてその
中よ柳。梅れ色く。海やうにまうれう海こそ
上くれ人なるへうれやうれ人よとゆるくふ

まうれあきかうくこそあれ
その人城ありうとハいひうこう強ひきうハ
あうすよをのくれ浮めらるく人をこれもこれ
多がハのうるかてどあもくふもやせよ海う
する女人をなんようきとひうりやうれ人も。産
女よ一川のあひうりハようれともやかを
のれをあもせうやこ川れさひうりハ姉くう。
てきあてもれそうかうすみをよりう
もれくてもなるへ。よひきれつうき人
ハ女れもくともるあよるきあれとも。家
のかをめ國のくをうまハ姉ぐうよき人を

ほうもつ人のつもりにてたくき人をもたくさん
のかぶるへ　かせ倩をみえくに一ぬ
と頭りしゃのひけるに人の居下ぱらうせぬ
とおもとすう事ゆるくまとにきくゆへ物
とやうなりとちらせぬみくよかんもと
の主意れ心もちりがつ遣分とこそ世へ
とも。ぱってもぬるさ事より国をとせぬ我ぬ
くふうぱ。ゆめしげくもなく服もこれぱらせ
ぬの心ぱうちすくりくよきあしもあるぱくく
事公とさけまとともぱらきをせくゆへよそ
れも形すぱのもすぱってもぱ人のうあ

よ事にてくもとハ和のもすぱ手前のもづは
さへ形すぱもづきあれあれ人く遣
やくくとぱつまのんあり。一まぱ宗廟の居。二まぱ社稷
三色のんあり。一まぱ人ちくく只人乃居下
の居。三まぱ家居。又すぱ家居。二まぱ社稷
居とぱ。親せんぞより伝ぱつる者。今れ
せは兼代元とぱる者ぱ居ハ表のぱくて
もこのくてもその主人の家をもあまぬ居
すり。社稷ぱ居とぱる八其国をまぱ居遣其
国ぱゆれもぱれぱ人ぐちぱ西ぱぱ
なすぱ姓。表ハそもあれかくもるれ。国ぱ

まうる物なりとす。是は今の代よりはてむき
よりつけをきく。國をまもるすべなりか
やうに思ふべく。實法といふは義をもつ
く法とあり。義をもつくるは今のせよ
まうり事なといつる志なるべし。主君よた
のめは法下とし。義をもつく像をこしも像
をやりたきくへ。もとをたすをといひ人をそへて
もとをたすりぬ。山一は所きくもてかまふ
といつるまは是こそありぬまひあるは宗廣
の法一系姫へ。元もひをもつをゆへ。何
もつも一変法下とつもひりかくも寿う

せんとあるへう人多し。是は法をもちひ法は元
とをたすこそ。元法義をもつくく合すつくく
ひんとう　宰人とはまき人ぶびう
法へまりこ形ともせく。屋法のうはは屋
すへとて所の人くたりは。近年を
来の言さは形すは毎よるくしてすぎ
うきとみえしに。おき人いまこ賣志ろう
色の物もるく夢人程よ。ぶひようくと
もくもまうのとえ。みえてうひとあられな
毎は宰人なるへ。所人まうをとトさま。
来をうトされ。めぎいのくう程やき

宰相をはじめとして。宰人より宿もつかうね
しやうのゆゑ人もこのりときくぱりあり
宰人もみな駿のうちよりこのりし人をよばう
いろさまあひうつる人の。果うあると作られも。
ろうよあひゆくも理りあくまやひろしんと云。
一人答曰ゆめく其乃理よあるす。津ここの爲
人ころされ流されまつる爲ゆへよつこあさ
人の宰人多し。つこゆきを人をすてまつる爲
すあるひ者も為こうよ殷の紂として惡王
なり。其乃下より其子として賢人あり。まり元
い惡王なれども。一家大臣よりし上へ天下

よ何程ありきを重ねこの
半ばあるまり。彼君のみよ重ねたる名を
きくしてかくせいすんよりつ強よ周の
武王殿の紂とうちほろぼすりひ其子を
以者をせよ。て用ひ家の家思ひ為へども。津紂
つまつくひ主とをまりきとのひろるときく
をようひ為ひつくせんとすはうすよう強い
ときこの下をすておきて紂王とい赤代めて
ひとりひあらんとすれも者くのせいもん
屋づりかくとかくひけるくも天下のこと
して其ひくこ志わんしひ為ひよとくひ為を

すてゝ世くへきよりのすとして朝鮮國の王か
あるく家の人のあひたらひをしめんと
ありて洪範とりて筆を染てうつす洪範や
いはく天下の暴風寒暑皆天下をうる人の心の
すりよりて出るといふまことにうるはしの物なり。
天下のふうぞく天氣のあらさまをうるとして君
王のれんぼをうるはしの物なり
見うて分別してきわくも味方りきくも
われ能者をすて世くあめりハ法朝ハ我
能わもうるこれをうれとも能去いすくるのき
者ハ別きゆへよ宰人世をうばりなるう

とそもうぐたうれんかあきハ行ようを
てかうりき能ハよきよ
うへよのそむ人ハあ間まりやうのりりを
れたひの心より世をうばり
そうやうりまもりりあへうれ風ぐて宰人を
ゆくるりりうとかうしハ人の曰ふ人の行程
すこそ行くとも分みてもえ乃南志ひ
のんとをくよもうせあうし今世かくハ
つとりへまあもとそみ野うれ清く
強国林のあうりまくふうひ的射する
人くれひまろふれもみか天石沼矛ハ

いま世のくひとも天乃と云人も亡てい
ぬる者の山よりの者の人は亡のやう
なる様天乃と云と。ぬしの人まれなり。とも
人の主りまきまへ給ふ。ことに一人者曰。天乃
と云て一人さぬりくの者と云みえひぜひ
まみちくてゆんくの天乃まとみえさり
して世くよりの者とはいつめぐりつ人の
子あるゆん者ハ親と一ち道とさこむ親のうち
とりて皆云ずるの時ハ亡ぬを天乃と云女を
ぬとを天乃と云異天乃のすこと云なり。
もまとをもひも則天乃とをもむくひてある人

しをもとをすして天乃と云人ハ亡よりて人のいつまーとき
くて猫とあるへ清こうあるすると思へ人ハ洗米をとるへてこと
餅なと魚肉のく色くのそをもうを云人
多しぬ。ひ天乃とよまとてもうけのね
よめて餅のうまむめてまくくよろこび
きまくわんや人くにうき者ハこれて
あるはまもすぬんや弥仏をやまくく
天乃とひく人ハ清りうる人まこのう
すくく乃理とはして天乃と云又四曰志うう
も天のめくくとの世も天まりと又世

もの事を事とせんくいらんや。答曰。天より理あるを
うつさまほしこそいらねばのうまの理の善悪も
善悪ものよのなれば。真の神は水心のごとく
物うつしゆくもの。形なるあるまてもひきて
面へゆく物をうつしゆくもひきて面へ沙
しんと思つめくいきるくらひ。ひきて物を
理の命をうつしゆく事わくしゆ天もりとり
事も。天より人の面をうなつ世れあるをうていな
をしゆくもの。悪をいはもりの心をうつしてれもぬは
天たの心をうつしゆ。人のまさわもれを抜けもつのく
面をもの。人をりの心ありくのうくうんと思ふうて

ゆくしゆくもの。理をうくゆのうくゆの
事をうり。天のめくみとりもの。天より心ありく人
の善悪をんを違ひ形をの面をうはあてゐゆ
くはあるねをも。人はそもまを掛れあくゆ
てれりぬ命をうより善をふ天のあうひをくてれ
りぬ。理をうりゆりうをうをきを人のよかるぬは
ようきことのたるねと思ふ。一つのきを人の一つ
かるぬはのきゆをまをうをぬあをと知へし。
くゆ形命をんは天をも人をもとう理ひう事
をうるへし。実より面をうをこのくをきれは天と
をうをこ人をうをもちゆ。あう身みをうやをくのさ

まうきはゆうまひあるもれなりこてみはうこ
あさとはゆまれはつるきやうはりとうくろ
うねの屋うなるうはうはうはうはうはうはうはうはう
よとしてはて天屋の書とりうハ間易のう
なり易ハ六十四卦あるはつ卦よ繋ゆりはり
三三うくのおとうはしハ六すちれはよはまうう人
もはうはうは毒めは上とり二毒めふあて犬人を
はうりはうちれは上ゆくこそ意とはうはうはきよ二毒
めを意とはうはは心ハはとはは国家の意はのはは我
一人をちやうはとは思はひ分別はは位はうはえはう
はは栄苑めは。卦はは。はりはよれはきはうはよあれは。

必天屋はうはうはは。はのはき堂はあまはうはうはや
はうはは事はは意はせはくはは。はちはうはのはちやはうはとはは。
元龍の物はとはうはけはきはは物なはり。元龍はとはのは
ハ天ハはりはうは龍はりは。は龍ハはは物はやはわはるはへ
きはなはきはは物はよはけはは物はよはきはへはりはのはり
すはきはうはくはは意はあはは。はは物はとはは人はは犬人はは
人はの事はは卦はは卦はは卦

まひ給へ。これ天子を増んじ給へゆへなり。
志ろしめすとも又、天下の武士人〻しのぶ
ものすきくの事にくいまゝにきらふ不審
する人〻まそれい高ようやまひれよ。おごり
てもあるべきいかなるよわすゆ。禄すくなくしてよ
ろづまぢあるいなすきゆへ。武の上よりまて
も元祢の物なるべ。武士人〻多まく
れすぎゆくるを天子人〻をもむくと云へ。大人
の心なるべし
天をさのゝ三ヶ条いなくして後。一のうれいなし。
すべ年貢ゆくしてのち。武士おろりいそぐ
しかるべきゆへ。ぶ士ゆへ。年貢
これを下四の心なりまる

寛永拾五戊寅十月廿吉日用之